

明治期以降、日本の美術は急激な西洋化の波にさらされます。日本の洋画家たちは、西洋画の写実表現や遠近法などを取り入れ、独自の表現を求めて模索を続けました。このような状況下で、国が主催する文展が創設されます。本県の洋画家では、西都市出身の塩月桃甫が、大正5（1916）年に文展入選を果たしました。また、都城市を代表する山田新一は、大正14（1925）年に文展を前身とする帝展に初入選し、中央画壇で活躍しました。一方、伝統的な日本画の世界においても、西洋画の要素や特徴を取り入れた新しい「日本画」への取り組みが進みました。本県を代表する日本画家として、文展で受賞を重ねるなど日本画界をリードした都城市出身の山内多門、同じく都城出身で、大正4（1915）年の文展において初入選で褒状を受けた益田玉城が挙げられます。

ここでは、これら宮崎県を代表する画家たちの作品を中心に展示するとともに、今年生誕100年・没後10年を迎えた加藤正の作品をまとめて紹介します。郷土作家や本県ゆかりの作家による多彩な作品をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	加藤 正	1926~2016	革命と喪失	1954（昭和29）	115.7×90.5	油彩
2	加藤 正	1926~2016	青年	1956（昭和31）	145.2×97.1	油彩
3	加藤 正	1926~2016	プロメテウスの受難	1955（昭和30）	130.3×162.1	油彩
4	加藤 正	1926~2016	やってくる・夜	1981（昭和56）	80.6×100.0	油彩
5	加藤 正	1926~2016	ああ輝きの四月の底を	1992（平成4）	168.2×137.0×4.8	アクリル
6	加藤 正	1926~2016	黒い月	2000（平成12）	48.1×55.8×4.4	アクリル
7	加藤 正	1926~2016	風の塔	1957（昭和32）	39.6×25.8	リトグラフ
8	加藤 正	1926~2016	アフロディテーとヘーパイストス	1981（昭和56）	5.9×7.5	エッチング
9	加藤 正	1926~2016	復讐の女神たち	1981（昭和56）	8.9×11.8	エッチング
10	加藤 正	1926~2016	地獄のケールたち	1981（昭和56）	6.0×8.0	エッチング
11	加藤 正	1926~2016	パーシパエーの変身	1981（昭和56）	8.0×8.8	エッチング
12	加藤 正	1926~2016	落ちていくイカロス	1981（昭和56）	6.8×4.5	エッチング
13	加藤 正	1926~2016	バッコスの信女たち	1981（昭和56）	8.0×9.0	エッチング
14	加藤 正	1926~2016	蜘蛛になるアラクネー	1982（昭和57）	23.8×17.8	エッチング
15	加藤 正	1926~2016	増殖するエロス	1982（昭和57）	22.6×14.4	エッチング、 アクワティント
16	山田 新一	1899~1991	菊の花	1928（昭和3）	60.8×50.0	油彩
17	山田 新一	1899~1991	少女	不明	40.5×31.1	油彩
18	塩月 桃甫	1886~1954	黒猫と少女	1950（昭和25）頃	73.0×60.6	油彩
19	鱸 利彦	1894~1993	白衣の女	1931（昭和6）	73.2×60.8	油彩
20	鱸 利彦	1894~1993	清流	1981（昭和56）	45.5×53.0	油彩
21	中尾 達	1906~1984	青島	1937（昭和12）	50.0×60.5	油彩
22	岡部 南圃	1807~1873	四季花鳥図	1848（嘉永元）	右隻163.2×356.0 左隻163.2×356.1	日本画
23	小泉 二山	1858~1936	山水図	不明	右軸79.2×30.6 左軸79.2×30.7	日本画
24	山内 多門	1878~1932	竹林七賢之図	1903（明治36）	142.2×86.2	日本画
25	益田 玉城	1881~1955	山宿の春	不明	124.1×41.5	日本画